

再エネ主力電源化に向けて ～九電グループの再エネ事業を当社へ統合～

2023年2月27日



Kyuden Mirai Energy

自然の力で輝く未来へ

九電みらいエナジー

はじめに

この度、九州電力の地熱発電事業、並びに水力発電事業の承継が決まり、九電グループの再生可能エネルギー事業の強化・拡大の役割を当社が担うこととなりました。

2024年4月に、まずは約21万kWの地熱発電事業を承継します。この時点で自社の再エネ設備は、合計で31万kW。出資先を合わせると、合計85万kWの再エネ電源を運用することになります。

地熱は、非化石価値はもちろんですが、出力が安定しており、供給力としても貴重な電源です。ロシアのウクライナ侵攻により、エネルギーセキュリティの重要性が高まる中、この電源を最大限に活かし、再エネの価値を更に向上させる機会としてまいります。

このため、現在開発中として引き継ぐ地熱案件は着実に推進します。加えて、新たな案件発掘にも力を入れ、世界第3位といわれる国内地熱のポテンシャルを電力として引き出していきます。そのために地域の皆さまとのコミュニケーションを丁寧に行い、開発に対するご理解を得られるよう努めてまいります。

また、地熱発電事業により得られた収益の一部を、他の再エネ開発に再投資することで、九電グループの2030年再エネ開発目標である500万kWの実現に繋げていきます。

今後、準備が整い次第、水力発電事業も承継しますが、その時は自社設備160万kW、出資先を含めると213万kWと、国内トップクラスの再エネ事業者になります。当社は、カーボンニュートラル実現に向けた再エネの主力電源化を進め、再エネ事業を九電グループのコア事業として成長させるべく、全社一丸となって、あらゆる取組みを加速してまいります。

2023年2月
九電みらいエナジー株式会社

代表取締役社長

水町豊



八丁原発電所（大分県、110,000kW）



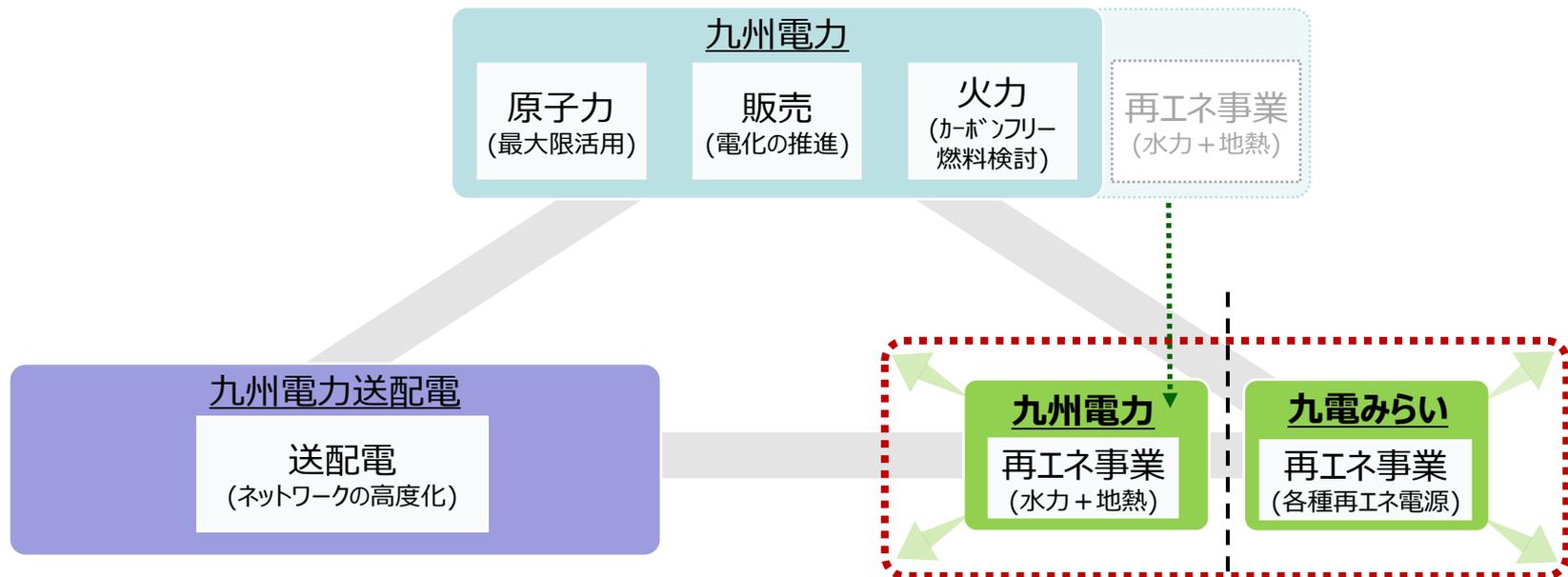
九州電力の地熱・水力発電事業の承継

承継の目的

- 九州電力(株)と九電みらいエナジー(株)の再エネ事業を統合し、**事業運営体制を強化**することで、
 - カーボンニュートラル実現に向けて、**再エネ主力電源化に向けた取組みを加速**し、
 - お客さまや社会の**再エネに対する幅広いニーズにお応え**し、
 - 再エネ事業における**新たな価値創造に挑戦**し、

再エネ事業を九電グループのコア事業とします

九電グループにおけるカーボンニュートラルへの取り組み状況



統合により更に強化・拡大 → コア事業化

承継の効果

意思決定の迅速化

- 責任・権限を1つの会社を集約し、意思決定を迅速化

経営資源の獲得

- 再エネ事業に必要な人・モノ・カネ・情報を効果的に獲得

経営基盤の強化

- 地熱・水力の安定した収益
- 再エネ新規開発・更新工事へ投資し、サステナブルに成長

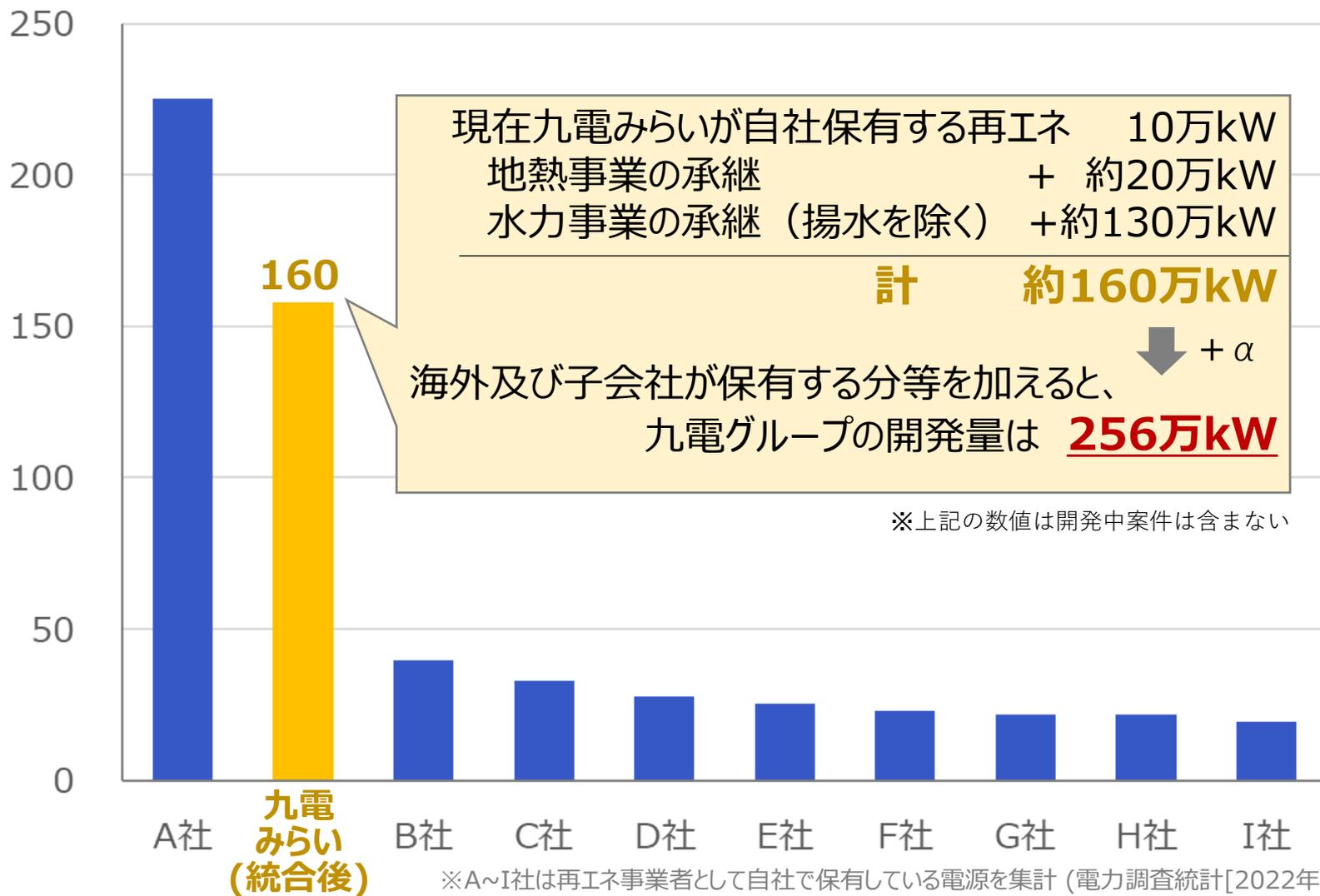
企業価値の向上

- 再エネ事業を着実に拡大
- 競争力・収益力の更なる向上

九電みらいの発電所出力はトップクラスに

- 再エネ事業者として、九電みらいエナジーの発電所出力は**国内トップクラス**になります。

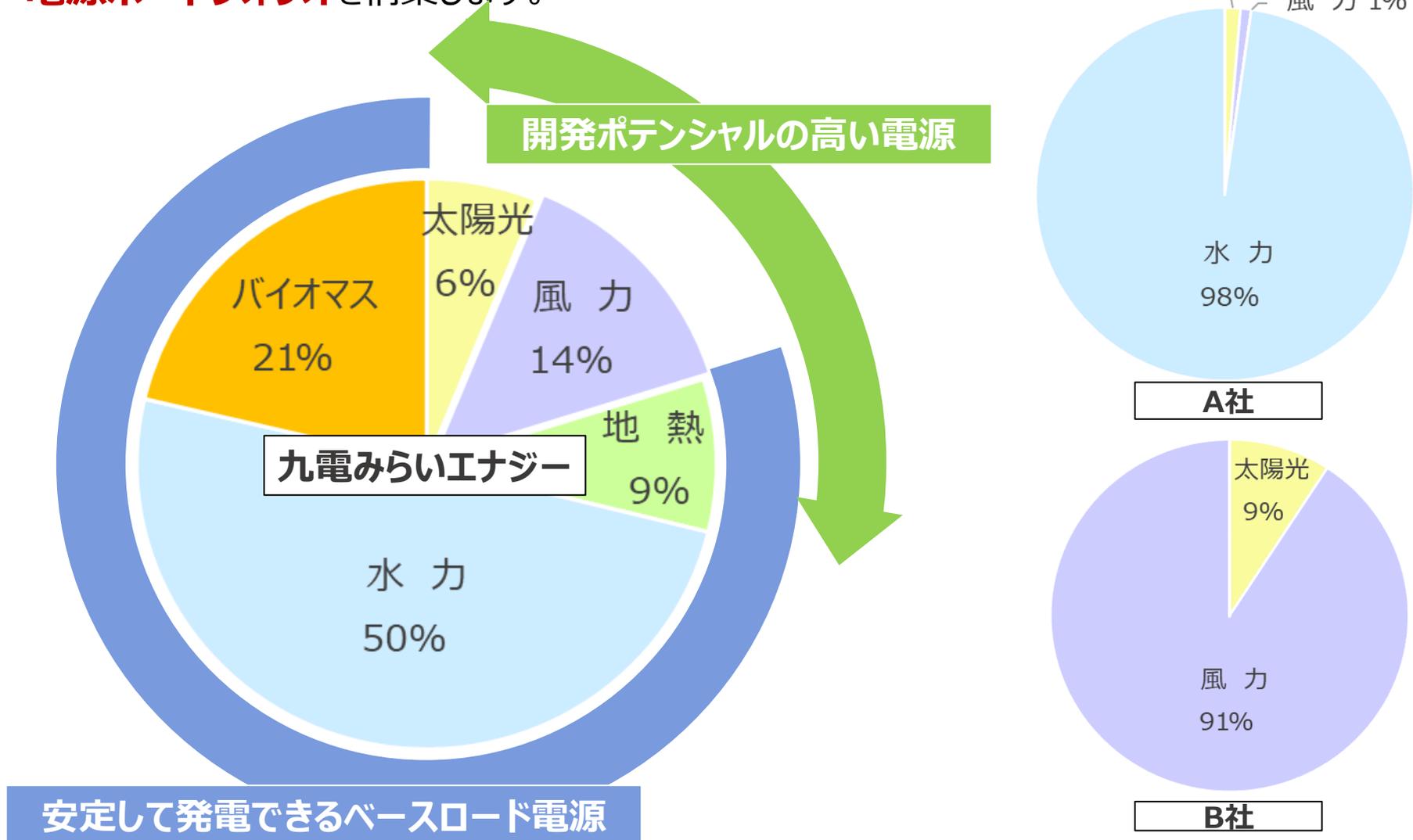
〔万kW〕



※A~I社は再エネ事業者として自社で保有している電源を集計 (電力調査統計[2022年10月]調べ)

再エネ 5 電源すべてをバランスよく開発

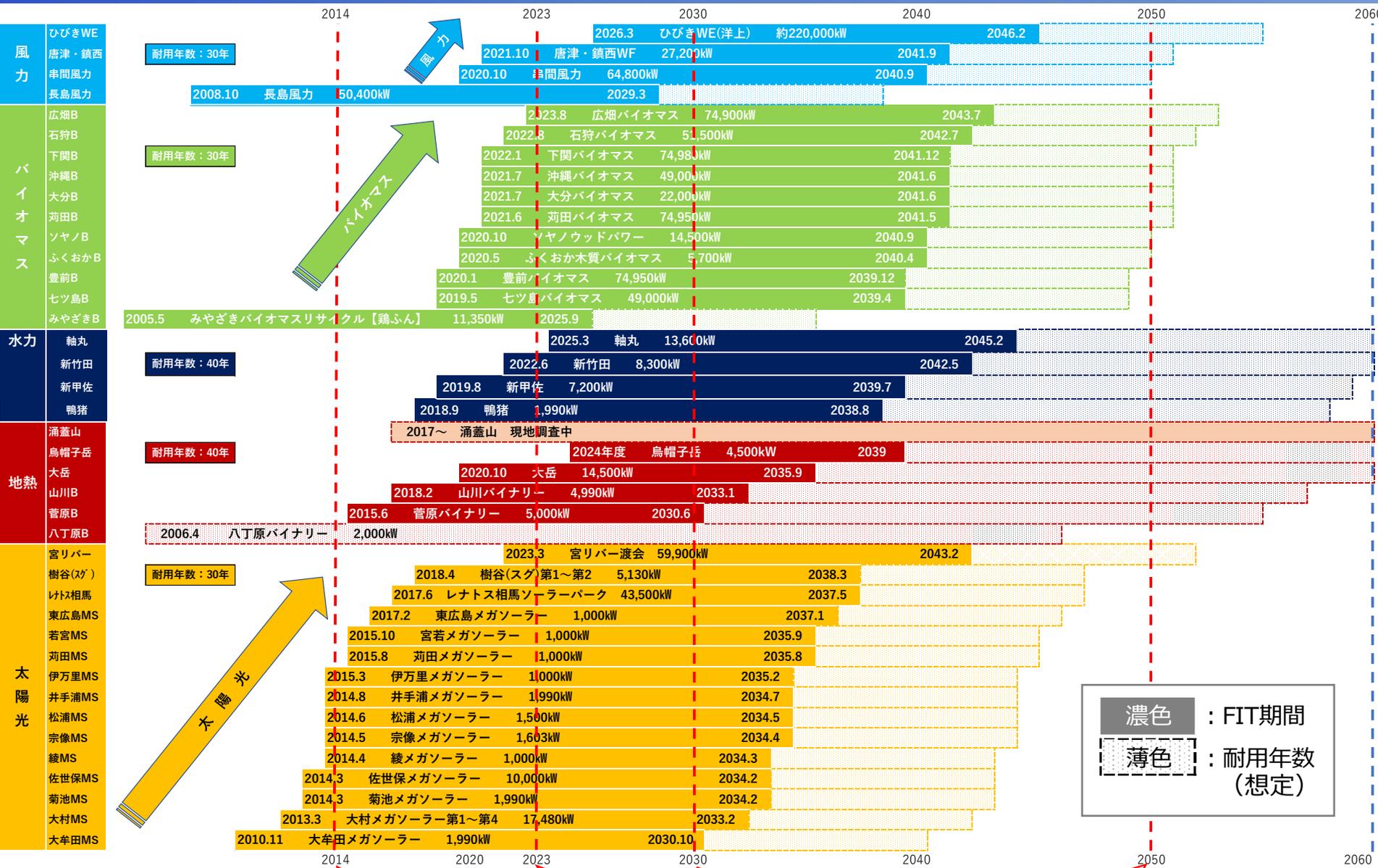
- **主要再エネ 5 電源をバランスよく開発**することで、環境変化等に**柔軟に対応できる電源ポートフォリオ**を構築します。



一ツ瀬発電所（宮崎県、180,000kW）

承継後の事業戦略

再エネ開発の取組状況



2014.7 QME設立 2023 QME設立10年目 九電グループ経営ビジョン2030 2050年 カーボンニュートラル

経営ビジョンの概要 – 「再エネ3C」の取組み–

○ これまでも、当社では基本的な取組みを示すものとして「2030年のありたい姿」にある「再エネの主力電源化」について、「3本の矢」をモチーフに社内外で説明をしてきました。

- I 新規再エネ電源開発の積極的な取組みによる設備容量の更なる**拡大** (kW) = **Creation**
- II 保守点検ノウハウ等を活かした既存設備の延命やリプレースなどによる**継続** (timeline) = **Continuation**
- III 余剰電力の有効活用や再エネ価値の商品化など需要と供給の**調和** (kWh) = **Coordination**

○ この考えをもとに、これらの取組みのうち「拡大・継続・調和」をキーワードとして、それぞれの英語の頭文字をとって「再エネ3C」と定義しました。

【主力電源化に向けた再エネ3Cの取組み】

I 拡大 Creation	<ul style="list-style-type: none"> ・国内外において様々な再エネ電源の拡大・創出に、地域との共生を図りながら取り組みます
II 継続 Continuation	<ul style="list-style-type: none"> ・卒FITを見据えて、再エネ電源を長期安定的に使えるよう取り組みます
III 調和 Coordination	<ul style="list-style-type: none"> ・需給管理や系統安定化により再エネを最大限活用できるように取り組みます ・お客さまニーズに合わせた環境メニューやサービスの提供など再エネによる課題解決に取り組みます

【再エネ主力電源化に向けた3本の矢】



2030年の経営ビジョン – ありたい姿と11の戦略 –

企業理念

自然のちからで輝くみらいへ

私たちは、自然が持つ様々な力をエネルギーとして活かすことで、ずっと快適な社会の実現や魅力ある地域づくりに貢献します。

経営ビジョン (2030年のありたい姿)

22年3月策定

2050地球のみらいへつなぐ企業

カーボンニュートラルの実現に向けて、再エネの主力電源化に勇猛果敢に挑戦します！

【主力電源化に向けた再エネ3Cの取組み】

I 拡大 Creation	・国内外において様々な再エネ電源の拡大・創出に、地域との共生を図りながら取り組みます
II 継続 Continuation	・卒FITを見据えて、再エネ電源を長期安定的に使えるように取り組みます
III 調和 Coordination	・需給管理や系統安定化により再エネを最大限活用できるように取り組みます ・お客さまニーズに合わせた環境メニューやサービスの提供など再エネによる課題解決に取り組みます

再エネ発電事業

【戦略①】
海洋再エネ

【戦略②】
PPA事業

【戦略③】
新規陸上風力

【戦略④】
海外再エネ
事業

【戦略⑤】
既存設備の
ナレッジ
マネジメント

【戦略⑥】
バイオマス
燃料事業

【戦略⑦】
お客さまニーズに合わせた
環境メニュー・サービス

新事業領域

【戦略⑧】
蓄電池・アグリゲーター・
水素・アンモニア

事業基盤

【戦略⑨】 ヒト・組織風土

【戦略⑩】 DX

【戦略⑪】 資金調達・財務基盤

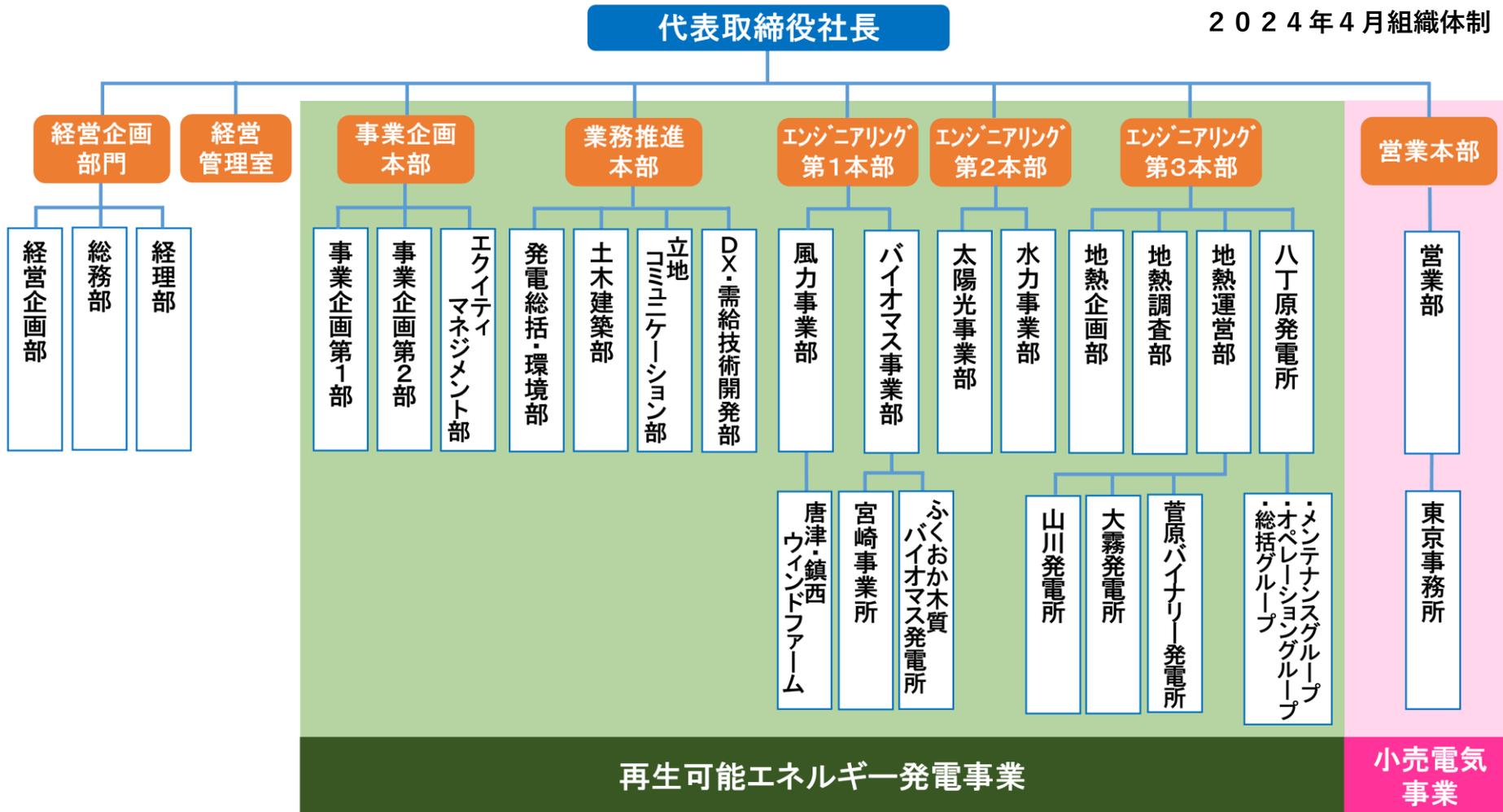
行動指針

(参考) 移管する地熱設備の概要

発電所名	施設番号	使用開始年月	定格出力(kW)
大岳 (FIT)	1	R2.10	14,500
八丁原	1	S52. 6	55,000
	2	H 2. 6	55,000
	バイナリー	H16.2	2,000
山川	1	H 7. 3	30,000
大霧	1	H 8. 3	30,000
滝上	1	H 8.11	27,500
		合計	214,000

(参考) 2024年4月の組織体制

2024年4月組織体制





Kyuden Mirai Energy

自然の力で輝くみらいへ

九電みらいエナジー



九電  グループ
ずっと先まで、明るくしたい。